



色の力で心を豊かに

Vol.104

江岸 可織さん
(横山在住)

カラーリストとして色に関する講座の開催や、いろやギャラリー内で個展やコンサートなどを企画。全国規模の公募展を兼ねた隔年の芸術祭「岩国ビエンナーレ 錦の宴」の代表も務める。



岩国ですてきな物と触れ合える場所を作ろうと、気軽に入れるギャラリーづくりをしているのは、江岸可織さんです。人見知りで、家でゆっくりすることが好きな江岸さんは、20代後半で「何かやりたい、自分を変えたい」と思い立ちます。自分に似合う色を見つける「パーソナルカラー診断」を知り、色について勉強を始めました。

それまで黒やグレーなど目立たない色の服を着ていましたが、黒以外の色を服などに取り入れることで、徐々に考え方や行動が変わり、色の効果を実感するようになったそうです。カラーリストの資格を取ると、勤めていた地元のを会社を辞め、インテリアコーディネーターやカラー講座の講師など、色に関わる仕事に携わりました。

す。技法や歴史などの知識は無くても、作品を見てすてきだと感じることはできます」と話す江岸さん。県外に住んでいましたが、芸術に興味がなくとも気軽に入れる場所を岩国に作りたいと、生まれ育った横山でギャラリーを開くことを決めます。

10月には岩国の魅力を発信するイベントとして、日本酒をテーマにした芸術祭を開催し、全国から作品が応募され多くの人が芸術を楽しみました。

▼ギャラリーに気軽に入れるよう、店内のレイアウトを工夫する江岸さん



ある日、知人の版画家から、ギャラリーを開くので手伝ってほしいと頼まれます。そこで多くの作家や作品と出会い、展示会で1枚の絵から離れなかつたり、涙を流したりする人の姿を見て、絵や、それを構成する色の力を強く感じました。「ギャラリーと聞く結構えてしまいがちですが、私自身が芸術の初心者なので

江岸さんに今後の目標について聞くと「今でも人見知りなのは変わりませんが、色と出会ってからは、自信を持って行動できるようになりました。色には人を変える力があります。この場所に限らず、いろんな人が岩国ですてきだと思える物を見て、色が持つ力を自分の中に取り込むことで、豊かな気持ちになれる活動をしたいです」と、すてきな笑顔で話してくれました。



▲講座では色彩心理を取り入れたカラーコーディネートを教える



▲日本酒をテーマにした芸術祭「岩国ビエンナーレ 錦の宴」を開催